
「民都・大阪」フィランソロピー会議
～アジアの民都(公益首都)をめざして～
(分科会の設置に向けて)

なぜ「民都・大阪」をめざすのか

わが国は、戦後一貫して東京一極集中が進む中、人口減少・超高齢社会に突入し、社会経済構造の大きな転換点を迎えている。

生活・暮らし、健康、安全安心など、社会的課題の多様化に対応していくため、従来の行政サービスに加えて、民の力を活かした厚みのあるサービスの構築により、誰もが豊かでいきいきと暮らせる社会の実現が求められている。

こうした中で、国内では、NPOや社会的企業など社会的課題解決に取り組む新たな主体の増加、CSR（企業の社会的責任）の取組みが着実に進んでいるが、さらに世界では、寄附や投資等を通じた公益活動が新たな時代の潮流となり、「フィランソロピー（ ）」への関心が高まりつつある。

大阪は、町人が自分たちで多くの橋を整備していったように、都市発展の歴史において、民の力が大きな役割を果たしてきた。官の発想を超える活力を社会の中心に据え、「民が主導する社会」を大阪から創りあげ、国内外に発信していくことにより、東京とは異なる個性・魅力をもった東西二極の一極として【民都・大阪】の復活を果たしていく。

「フィランソロピー」について

語源は、ギリシャ語の「愛する」（Phil）＋「人間」（Anthropos）で「慈善活動」や「博愛」を意味する語。社会貢献活動の総称。ここでは、社会的課題解決に向けて行う寄附や社会的投資等を通じた公益活動をいう。

フィランソロピーを通じた「民都・大阪」の実現

我が国では、福祉や医療、教育などの様々な分野において、それぞれの主体が社会的課題の解決や公益の増進に取り組んでおり、また近年では、いわゆる社会的企業のような新たな主体も増えつつある。

このような**多様な主体が法人格や営利・非営利の枠を超えて、これまでになかった連携や協働（新たなアライアンスの構築）を生み出し、資金・人材の確保や情報発信などについて、従来とは異なる新たな取組みを進めることにより、大阪から民が主体となった社会的課題の解決を先導する。**

これらを通じて、自らの知識・能力・経験などを活かして公益の増進や社会的課題の解決に取り組むたいと考える**人材を支援するとともに、住民一人ひとりが活躍できる社会づくりを後押しする。**また、こうした動きにより**新たな産業や市場、雇用を生み出し、大阪の成長にもつなげていく。**

「民都・大阪」フィランソロピー会議の設置

「民都・大阪」フィランソロピー会議

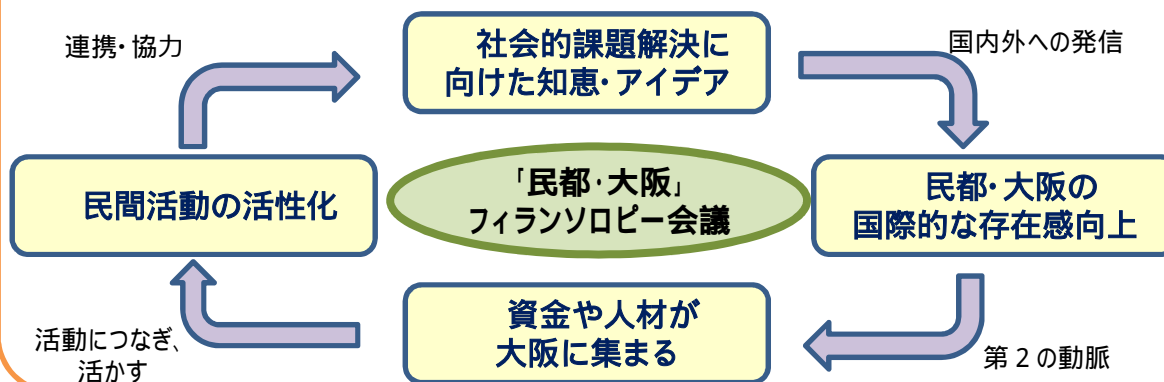
フィランソロピーへの関心が世界的に高まりつつある中、多様な担い手が、法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、それぞれが公益活動を担う主体だということを再認識（共通のアイデンティティを形成）し、大阪の民の連携・協力によりその存在感を国内外に示す「核となる場」として、「民都・大阪」フィランソロピー会議をつくる。

【場の創出を通じた好循環】

この会議を核にして、大阪が抱える様々な社会的課題の解決に向けた新たな知恵やアイデアを生み出す。こうした大阪の動きを国内外に向けて発信することで、「民都・大阪」として、アジアを中心に国際的な存在感を高める。

「民都・大阪」において、世界的な潮流である税の分配によらない民の自発的な発意による寄附や投資を第2の動脈として資金や人材を集める。

この資金や人材を、民が主体となって大阪における非営利セクターや社会的企業などの活動につなぎ、活かすことで、活動の場を広げ、民間活動の活性化につなげる。



【核となる場（公益活動のプラットフォーム）の検討イメージ】



「民都・大阪」フィランソロピー会議の構成等

会議の構成等

官民が協力して設置する**民間組織**（大阪方式）

サード・セクター及び社会的企業のトップ層、有識者、府及び市幹部で構成

（10～15名程度の規模とし、会長・副会長を置く）

包摂的組織として分科会を設け、会議としての開放性を担保する

まずは会議としてスタートし、**将来は民間組織による運営**を目指す（当面、副首都推進局が事務局を担う）

所掌事項

* 「民都・大阪」に向けて政策上の建議（課題抽出や新たな連携・協働促進に向けた取組み、情報発信など）

* 分科会に関すること（活動報告や成果の共有・具体化など）

* 「民都・大阪」フィランソロピー大会に関すること

会議の5原則

- 1 . 中長期的に**東京一極集中を打破**することを目的とするものであること
- 2 . 「**民都・大阪**」を目指すものであること
- 3 . **民と官の新しい協力**から生まれるものであること
- 4 . 基礎自治体等のNPO政策を阻害するものではないこと
- 5 . 縦割りの施策を面（地域）として捉えなおし、
これまで**ない連携や協働を生み出す**ことを目指すものであること

「民都・大阪」フィランソロピー会議

議論・決定の場

【構成・内容等】

- ・官民協力による民間組織。サード・セクターのトップ層等で構成（必要に応じ、分科会リーダーも参加）
- ・「民都・大阪」に向けて政策上の建議（課題抽出や新たな連携・協働促進に向けた取組み、情報発信など）
- ・分科会に関すること（設置決定、リーダーの選任、成果の共有・具体化など）の議論・決定
- ・「民都・大阪」フィランソロピー大会に関することの議論・決定
- ・事務局は、当面、副首都推進局が担う

分科会

個別テーマの検討

【構成・内容等】

- ・大阪で活躍する多様な主体に共通する課題の解決につながる新たな仕組みづくりなどの検討
- ・社会的課題の解決につながる従来とは異なる新たな手法や、複数の社会的課題の解決につながる新たな連携などについて検討
- ・まず、「資金」・「人材」・「情報」の分科会を設置。原則として、各リーダーが自主的に運営

大阪フィランソロピー大会

イベント（情報発信の場）

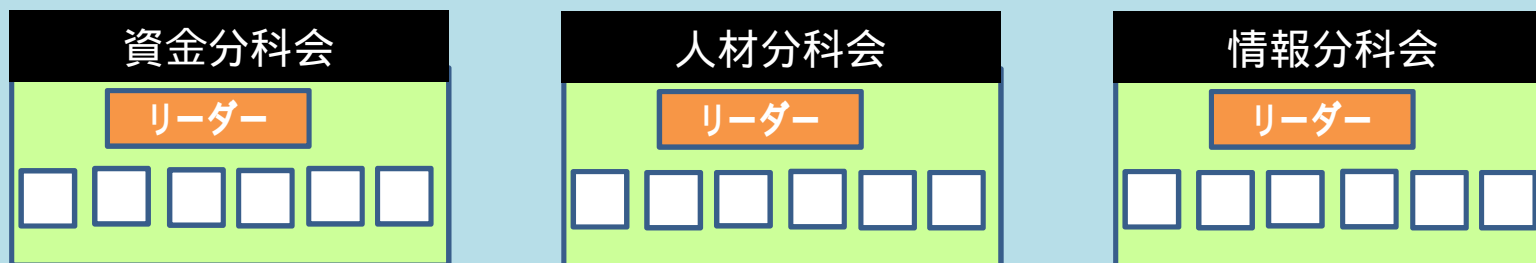
【内容】

- ・「民都・大阪」フィランソロピー会議や分科会の取組み等の発表・意見交換、情報発信の場
- ・大阪フィランソロピー都市宣言
- ・講演やパネルディスカッション、フィランソロピー促進に係る先進事例の紹介など

分科会の構成・運営イメージ

大阪で活躍する多様な主体に共通する課題の解決につながる新たな仕組みづくりなどの検討を行う
 社会的課題の解決につながる従来とは異なる新たな手法や、複数の社会的課題の解決につながる
 新たな連携などについて検討を行う

まず「資金」「人材」「情報」の分科会を設置し、それぞれの課題分析や優先課題の抽出を行う



【参考】：資金・人材・情報の課題例

分野	社会的課題(例)	資金(課題例)	人材(課題例)	情報(課題例)
福祉・人権・医療	高齢者・子ども・障がい者対策、 貧困・失業対策、LGBT、外国人	・ファンドレイジング ・クラウドファンディングの活用	・高齢化、後継者不足 ・人材の採用・育成、賃金	・情報ネットワーク構築 (収集・共有・活用・発信)
まちづくり・社会	安心安全のまち、防犯、マナー・モラル 地域コミュニティ、環境・緑化、観光・文化	・社会的投資促進 ・寄附文化の醸成	・人材確保、大学との連携 ・人材バンク、ジョブネット	・IoT、AI、SNS等の活用 ・海外との交流
経済・産業	エネルギー、規制緩和、雇用・就業 中小・ベンチャー企業支援、IoT・AI	・税制優遇、ふるさと納税 ・ファンド・基金組成 ・遺贈・休眠預金の活用	・企業人材・シルバー人材・ プロボノの活用 ・運営コンサルタント人材の育成	・活動の評価付け ・特区制度の活用 ・ロビー活動(要望・提言)

【分科会の運営にかかる留意事項】

分科会にはリーダーを置き、原則として、リーダーの自主的な運営にゆだねる

(メンバーの選定、分科会の開催・議題 など)

リーダー・メンバーの選任については、「民都・大阪」フィランソロピー会議の承認を得るものとする

分科会等の検討状況は、適宜、各リーダーから「民都・大阪」フィランソロピー会議に報告

リーダー・メンバーの報償費や旅費等は支給しない

分科会は公開に努めるとともに、リーダー・メンバー以外の者も分科会の議論に参画できるよう配慮する

分科会に関する検討経過・今後の進め方（案）

	内容（案）
<p>第1回 ～ 第6回</p>	<p>「（仮称）大阪フィランソロピー会議に向けた準備会」において、 H29年4月から9月にかけて議論・検討</p> <p>（準備会メンバー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター 金井 宏実代表理事 ・「大阪を変える100人会議」 施 治安顧問 ・国立民族学博物館 出口 正之教授 ・社会福祉法人大阪ボランティア協会 早瀬 昇常務理事 ・公益財団法人大阪コミュニティ財団 森 清純専務理事 <p>議論・検討経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：会議の意義・目的等について議論・検討 ・第2回：会議の意義・目的等について議論・検討 会議で検討するテーマ、会議の構成等について議論・検討 ・第3回：会議で検討するテーマ、会議の構成等について議論・検討 ・第4回：会議で検討するテーマ、会議の構成等について議論・検討 （会議の構成）会議・分科会・大会 （検討テーマ）まずは「資金」「人材」「情報」から検討 ・第5回：会議、分科会及び大会に関する主な論点について議論・検討 ・第6回：会議及び分科会の構成及び取組み内容について議論・検討
<p>今後の進め方 （イメージ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年11月～ リーダー・メンバーへの参画依頼 ・H29年12月～ 分科会を立ち上げ、議論・検討を開始 （具体的テーマの絞り込み、課題分析、課題解決に向けた方策の検討、等） 「民都・大阪」フィランソロピー会議がまだ立ち上がっていない場合は、研究会としてスタート ・H30年3～5月頃 検討状況の報告

【参考】：副首都ビジョン（H29.3.29公表） 抜粋

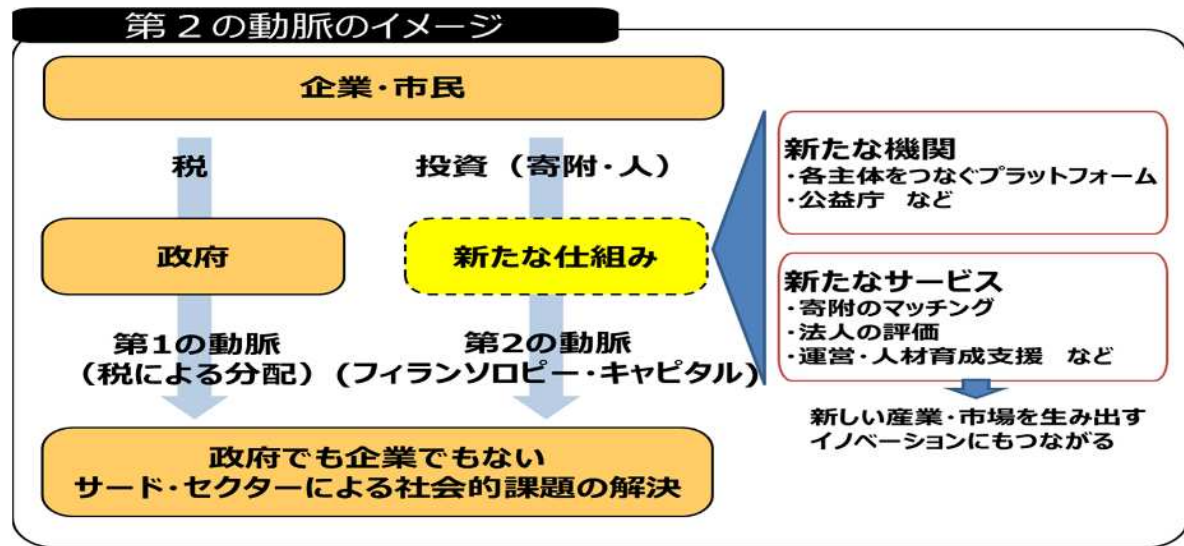
取組み例

フィランソロピーの促進、非営利セクターの活性化

市民・非営利セクターの役割が世界的にも大きくなり、寄附や社会的投資等を通じて社会的課題の解決を図るフィランソロピーが世界の潮流になりつつある。

フィランソロピーの促進により第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を大阪に取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、大阪が「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」をめざす。

まずは行政や、多様な分野で活動する非営利セクターとそれらを支える中間支援組織、大学、企業等が対等の立場で様々なテーマについて議論する「(仮称)大阪フィランソロピー会議」を設置。



検討すべき課題(案)	
連携強化	・多様な分野で活動する非営利セクターとそれらを支える中間支援組織や営利セクター・行政・市民・大学等を結ぶ公益活動のプラットフォームを構築
新たな資金の流れ	・寄附を増やす・寄附をつなげる仕組み、SIBなど新たな民への資金供給手法や仕組みを構築
活動の見える化	・活動を評価する仕組みを構築し、非営利セクターの活動等に見える化
活動の枠の拡大	・民間公益活動の促進に向けた官民連携の促進や規制改革の提案 ・全国組織の大阪支部誘致や公益庁の創設など
フィランソロピー都市の発信	・フィランソロピーの先進都市として世界にむけた発信

【民主導による公益活動のプラットフォームの検討イメージ】

